

雜
錄

ゼーンウエー教授ヲ弔フ

廣 瀨 耕 一

恩師セラドアー、カルドウエル、ゼーンウエー先生逝去セラレ、嗚呼哀哉。

先生ハ西曆千八百七十二年十一月二日紐育ニ生ル。父君ハエドワード、ガマリール、ゼーンウエート稱シ、有名ナル臨牀家ニシテ、マツキンレー大統領遭難時侍醫タリシ人ナリ。

先生ハ千八百九十二年「エール」ニテバチエラー、ヲブ、フィロツフイー、千八百九十五年「コロンビア」ニテドクター、ヲブ、メヂシンヲ得、千八百九十八年ヨリ千九百六年迄紐育大學講師、千九百七年ヨリ千九百九年迄アツソシエート、千九百九年ヨリ千九百十四年迄「コロンビア」大學内科教授、千九百十四年以後ボルチモアー市「デヨンス、ホブキンス」大學内科教授及ビ「デヨンス、ホブキンス」病院内科主任トシテ昨年ニ至レリ。

先生ノ研究的方面ニ於ケル活動ハ、千九百七年紐育滞在中、病院ニ於テ研究ノ必要ナルヲ説キ、ラツセル、セーヂユ夫人ヲシテ市立病院ニ研究費三十萬弗ヲ寄附セシメシ一例ヲ見ルモ明ナリ。蓋シ此前該病院ノ病理研究所ノ業績ハ殆ンド皆無ナリシガ、其後着々改良セラレ、市ハ建築物ヲ提供シ、又年々適當

ノ補助ヲ與へ、益々發展スルニ至レリ。

千九百十四年四月、「デヨンス、ホブキンス」大學評議員會ハ當時「コロンビア」大學教授トシテ令名アリシ先生ヲ「フル、タイム」内科教授トシテ招致スルコト、ナレリ。「ホブキンス」ニ於ケル内科教授ノ席ハ前ニ有名ナルラスラー氏ノ占メシ所(目下名譽教授ニシテ英國ニ滞在ス)ニシテ、後バーカー氏ニヨリテ繼ガレシモ、教育部所定ノ豫算金額ニテハ「フル、タイム」ノ地位ヲ保ツコト能ハズトテ辭シタリシナリ。此「フル、タイム」ノ席ハ私宅開業ヲナサズ専ラ教授職ニ力ヲ盡ス者ノ爲メニ設ケラレシモノナリ。茲ニ於テカ先生ハバーカー氏ノ後ヲ繼ギテ内科教授トナレタリ。

昨春米國ノ開戰セシ以來、先生ハ豫備衛生部ノ少佐トシテ、大學及ビ病院ニ於ケル公務ノ外ニ、政府ノ爲メ特種ノ研究ニ從事セラレヌ。「ホブキンス」隊ノ佛國へ渡航スルヤ、共ニ渡佛セラル、所ナリシモ、事務上中央部ナルワシントンニ止マラル、ニ至レリ。先生ハ此義務ヲ遂行スル爲メ、日々ボルチモアヨリワシントンノ醫務局ニ出勤シ、又軍隊衛生視察ノ爲メ陣營地ニ屢々出張セラレタリ。然ルニ昨年十月二十一日早朝、ワシントンニ向ハント用意中、突然肺炎ノ襲フ所トナリ、藥石效ナク、僅々六日間ノ經過ニテ、同月二十六日正午頃、セント、ポール町ノ自邸ニ於テ、溘焉トシテ逝去セラル、嗚呼哀哉。先生ハ驚クベキ勤勉家ニシテ、常ニ過度ノ業務ニ從事セラレタリ、之レ或ハ今回ノ奇禍ノ主因ナラシカ。

先生性極メテ快活且親切ニシテ、如何ナル人ニテモ價值アル質問ヲ以テセバ常ニ喜ビテ之ヲ聽キ卽座ニ懇切ナル助力ヲ與ヘラレタリ、而シテ同僚及ビ學生ノ敬慕厚カリキ。公衆衛生ノ改善ニ關シテハ事ノ如何ヲ問ハズ興味ヲ以テ之レヲ迎へ、彼ノメーリーランド州ニ於ケル結核豫防事業ニ盡瘁シテ、多クノ有益ナル講演ヲナシ、或ハアンナポリスニ赴キテ一定ノ議案ノ通過ヲ助ケラレシガ如キ其適例ナリ。又先

生ハ驚クベキ組織者ニシテ、此天才ハ「ホブキンス」ニ於テ遺憾ナク發揮セラレタリ。先生ノ生涯ハ實ニ美シキ家庭ト自己ノ専門的職業トニ全然包マンタルモノナリキ。

先生ノ學界ニ於ケル功績ハ多大ニシテ、特ニ血壓ノ研究ヲ以テ聞コエ、其他循環系及ビ腎臟ノ疾病ヲ深ク研究セラレ、米國臨牀醫學界ニ於ケル研究者トシテ果タ良教授トシテ頗ル名聲高カリキ。逝去ノ前、心臟病ニ關スル著書ノ起稿中ナリシニ、惜哉、時局ノ爲メ未ダ完成セザリキ。

先生ハ千九百七年以來紐育ノ「ラツセル、セーヂユ」病理研究所幹事、千九百八年以來內科學寶函編輯員、千九百十一年以來「ロツクフエラー」醫學研究所委員ニシテ、尙ホ米國內科學會、實驗生物學及ビ內科學會、米國臨牀研究會、米國醫學協會等ニ關係深カリキ。

先生ノ葬儀ハ、十二月二十八日午後三時、ホルチモアー市パークアベニユ、マヂン町ノ第一「プレスビテリアン」教會堂ニ於テ、ワシントンヨリ派遣セラレタル陸軍儀仗兵ノ護衛ヲ以テ營マレタリ。先生ノ後ニハ母堂、未亡人、三人ノ令嬢及ビ二人ノ令息アリ、尙ホ二人ノ姉妹アリテ他ニ嫁セリ。

回顧スレバ、余ノ「ホブキンス」ヲ去ラントスルニ際シ、昨年十二月六日、先生ノ自邸ニ於テ晚餐ニ招カレ、和氣霽々タル家庭ノ人々ニ圍マレテ快談時ノ移ルヲ覺エズ、深更名殘ヲ惜ミツ、別ヲ告ゲテ歸リヌ。今ニシテ思ヘバ、之ゾ永世ノ袂別ナリシトハ、神ナラヌ身ノ如何デ知ルベキ。門戸ニ立チテ最後ニ告ゲラレシ慈愛ノ言ハ今尙ホ耳朶ニ響キ、固キ握手ハ今尙ホ我手ニ溫シ。嗚呼、今ヤ幽明路別、高恩報ズルノ機ナシ。學界ノ爲メニ惜ミ、私ニ身ノタメニ傷ム、眞ニ斯ノ恨ミ涯リナシ、嗚呼哀哉。茲ニ先生ノ平昔ヲ追敘シ以テ聊カ弔意ヲ表ス。